

株式会社エージーピー 2021年度第2四半期決算説明資料



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2021.11.12

1 『長期ビジョン2025』を見据えた行動指針

- 1) 長期ビジョン2025 ー将来の展望ー
- 2) 3本の柱と6つの基本方針
- 3) 事業ポートフォリオの考え方

2 2021年度第2四半期業績概要

3 2021年度業績予想

長期ビジョン2025の業績目標は据え置き、急激な環境変化を受け、事業目標、組織構造目標をより明確化

企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します

- ◆ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ◆ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ◆ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

業績目標

長期ビジョン2025で掲げた業績目標は据え置くものの、売上はコロナの影響を踏まえ再設定する。

- ◆ 売上：200億円
- ◆ 営業利益率：10%以上
- ◆ 空港外売上比率：30%以上
- ◆ 自己資本比率：50%以上堅持
- ◆ 自己資本利益率：10%以上
(2014年12月25日公表)

事業目標

外部環境の急激な変化を受け、事業目標をより明確化し、空港外や海外などに事業領域を拡大し、高い技術で環境社会に貢献できる企業を目指す。

- ◆ サービス価値契約へのシフト
- ◆ 空港外へのサービス展開
- ◆ 空港内新技術への参画
- ◆ CO2削減への新たな取り組み（環境）
- ◆ 次期成長ドライバーの創出

(新産業, 海外 / 地方, 新サービス/商材等)

組織構造目標

事業構造変革の加速化に合せ、事業数字把握の効率性を高めるため、組織管理/事業運営管理の見直しを図り、経営基盤の一層の強化を図る。

- ◆ 1社化に伴う組織体制見直し及び業務集約
- ◆ 事業目標を達成するための機能強化
- ◆ 新たな管理指標・仕組みの導入
- ◆ 新管理指標に則した権限/責任見直し
- ◆ 次期成長に向けた人材確保と育成
- ◆ 能力/貢献度に基づく人事制度の導入

3本の柱と6つの基本方針

経営戦略：3本の柱

A 選択と集中

安定した利益の確保と低採算事業の事業性評価やビジネスモデルの見直しと新たな成長事業への経営資源の再配分

B 事業基盤のシフト

コロナの影響もあり、新規の市場（海外・地方）、新規の産業（物流）への参入、新商材の拡充、多角化を推し進める

C 経営基盤の強化

「組織体制の整備」、「事業運営管理の適正化」、「財務基盤の強化」により経営基盤の強化を推し進める

経営戦略：6つの基本方針

①	事業戦力の強化	自社の弱みを克服/補完することを目的に、他社との事業提携等を進め、戦力の拡充を図る	④	事業運営管理の適正化	財務会計観点での数字による運営管理から、事業状況の見える化、管理会計観点での実態把握、事業特性に鑑みたKPIモニタリングを行い事業運営管理を高度化
②	高採算化への体質改善 (生産基盤の強化)	運営プロセスの効率化を図るだけでなく、プライシングや契約スキームを見直し収益構造そのものを変えるまた、低採算事業の事業性を再評価し整理をする	⑤	(事業基盤を支える) 技術力の強化	空港外や海外、地方といった新たな領域でサービスを提供していくにあたり、外部の技術動向に準じて技術力を強化
③	組織体制の整備	グループ会社の一社統合の効果を最大化するために、制度や規程の統一化を図ると共に、売上と利益の責任所在の明確化と人的リソースの流動性確保を目的とした組織再編を行う	⑥	環境貢献の拡充	GPU促進によるCO2排出削減への取り組みのみならず、その他の“環境社会への貢献”をさらに一步推し進め、再生可能エネルギーやCO2排出権取引などをテーマに、“環境ビジネス”として事業化を図る

事業ポートフォリオの考え方

『「長期ビジョン 2025」を見据えた行動指針』に基づき、当社の中で採算性が高い事業は、業務効率と生産性をさらに高めることに注力するとともに、組織体制を見直し、当社技術を活かせる空港外領域への事業展開等により、新たな事業基盤へのシフトを推し進め、新規市場・産業への参入を目指す。また、選択と集中を進め、経営資源分配を最適化する。



今後は新規の市場（海外・地方）、新規の産業（物流）への参入、新商材の拡充、多角化として環境ビジネスなどを目指して事業基盤のシフトを加速する必要

(注) GSE : Ground Support Equipment (航空機地上支援機材)

1 『長期ビジョン2025』を見据えた行動指針

2 2021年度第2四半期業績概要

3 2021年度業績予想

- 1.2021年度第2四半期連結累計業績は、対前年で減収増益。
新型コロナウイルス感染症の変異株流行等により、旅客便の回復が想定より遅れているものの、影響を大きく受けた前年から回復し、動力事業は増収。一方で、GSE等販売事業の機材販売の減少、整備事業、施設事業の大型修繕工事の減少等により、売上高全体では減収となった。
- 2.営業費用は、整備事業、施設事業、GSE等販売事業の減収に伴う原材料費の減少や、業務の効率化による人件費の抑制、管理可能経費の抑制等により、大きく減少した結果、増益を確保した。
- 3.対計画では、2021年度第2四半期連結累計の売上高は減収となった一方で、営業損失は縮小する結果となったが、新型コロナウイルス感染症が与える影響は未だ不透明であり、**通期業績は期初の業績見通しを据え置き**。
- 4.2022年3月期の中間配当については、航空需要の回復が期初の想定より遅れており、当社業績も予断を許さない状況であることから無配。
- 5.2022年3月期の配当については、引き続き未定。

2021年度第2四半期業績サマリー



連結損益計算書

対前年同期比

(単位：百万円)

	2020年度 2Q累計実績	2021年度 2Q累計実績	増減額
売上高	5,048	4,660	▲387
営業費用	5,345	4,748	▲596
営業損益	▲296	▲87	+208
営業利益率 (%)	-	-	-
経常損益	▲293	16	+309
四半期純損益 ¹	▲160	13	+173

連結貸借対照表

対前期末比

(単位：百万円)

	2020年度 期末	2021年度 2Q累計実績	増減額
総資産	14,507	14,276	▲230
有利子負債残高	1,209	1,180	▲29
自己資本	9,330	9,350	+19
自己資本比率 (%)	64.3%	65.5%	+1.2pt
ROE (%)	▲0.5%	0.3%	+0.8pt

自己資本比率は65.5%

(自己資本比率50%程度を目標に財務健全性を維持)

売上高内訳²

(単位：百万円)

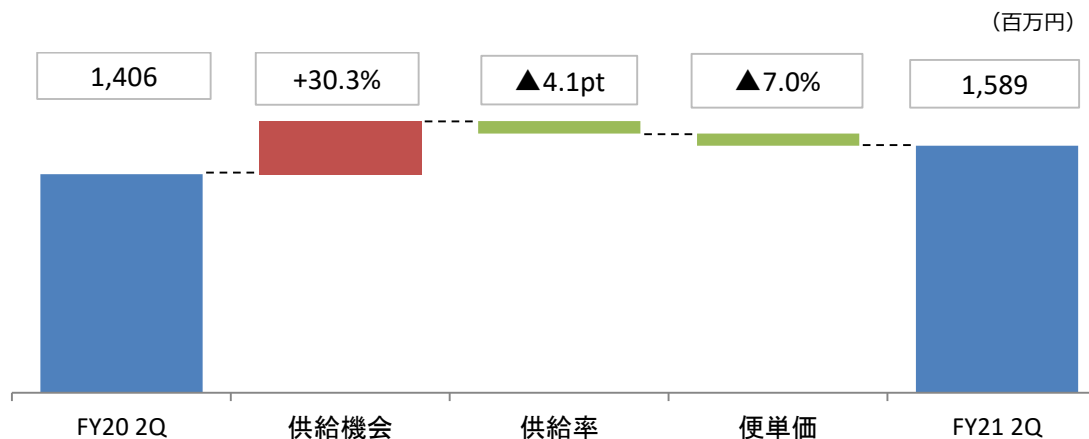
	2020年度 2Q累計実績	2021年度 2Q累計実績	増減額	
動力事業	1,623	1,811	+187	
整備事業	整備事業	981	▲251	
	新規 (物流等)	105	+191	
	施設事業	914	775	▲139
付帯事業	セキュリティ事業	289	238	▲50
	フードシステム事業	85	150	+65
	ビジネスサポート支援事業	119	131	+11
	小売電気事業	113	110	▲2
	工場野菜生産・販売事業	68	-	▲68
GSE等販売事業	497	165	▲332	
合計	5,048	4,660	▲387	

前年同期比において、動力事業は想定より回復が遅れているものの、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前年から回復し増収。また、整備事業、施設事業、GSE等販売事業は前年の大型案件の減少により減収。

1 四半期純損益は親会社株主に帰属する四半期純損益

2 売上高の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示
制度会計では整備事業と施設事業と新規事業を合わせて整備事業セグメント、セキュリティ事業・フードシステム事業・ビジネスサポート支援事業・小売電気事業・GSE等販売事業を合わせて付帯事業セグメントとしている

(対前年 動力電気収入増減要因分析)



【Q2】

FY20 /FY21 2Q 電気収入比較

	電気 売上 (百万円)				供給機会 対前年比	供給率 前年差	便単価 対前年比
	FY20 2Q	FY21 2Q	差異	対前年比			
国内FSC	1,157	1,309	152	113.1%	130.8%	▲4.0pt	92.4%
国内LCC	61	71	9	115.4%	144.0%	▲1.4pt	83.4%
外航FSC	186	208	22	111.8%	115.0%	▲4.9pt	105.3%
外航LCC	1	1	▲ 0	88.1%	67.1%	15.4pt	86.6%
全体	1,406	1,589	183	113.0%	130.3%	▲4.1pt	93.0%

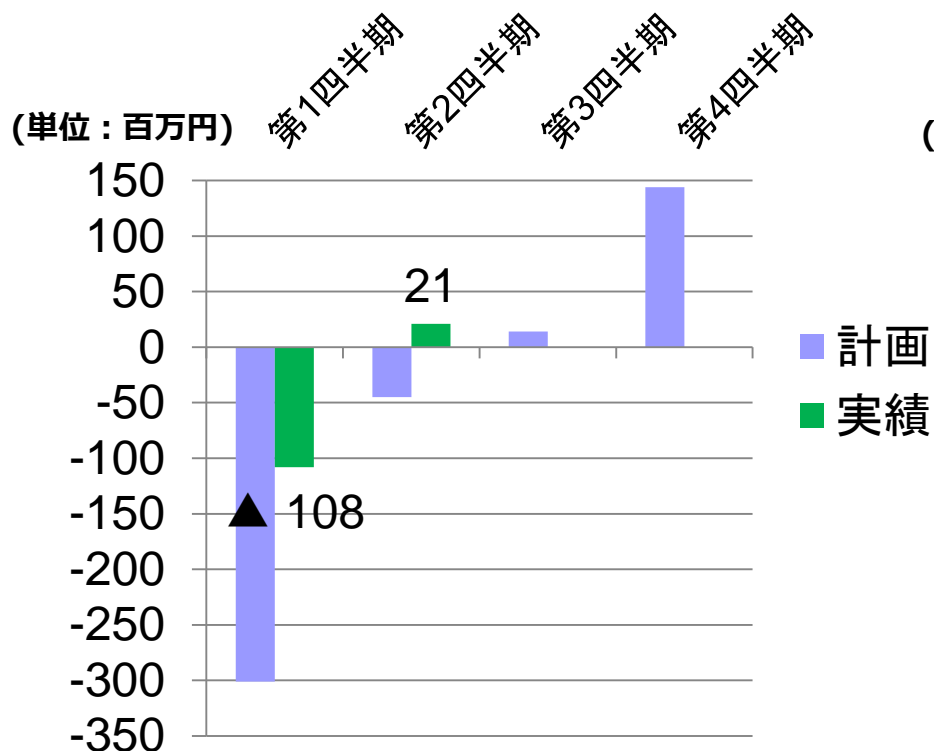
【FY20 2Q/FY21 2Q要因分析】

FY21 2Qの供給機会は大幅な回復傾向となったが、駐機中の機内換気を目的としたAPU運用が継続しており供給率は伸び悩んでいる。営業力を強化し、供給率の向上に努める。

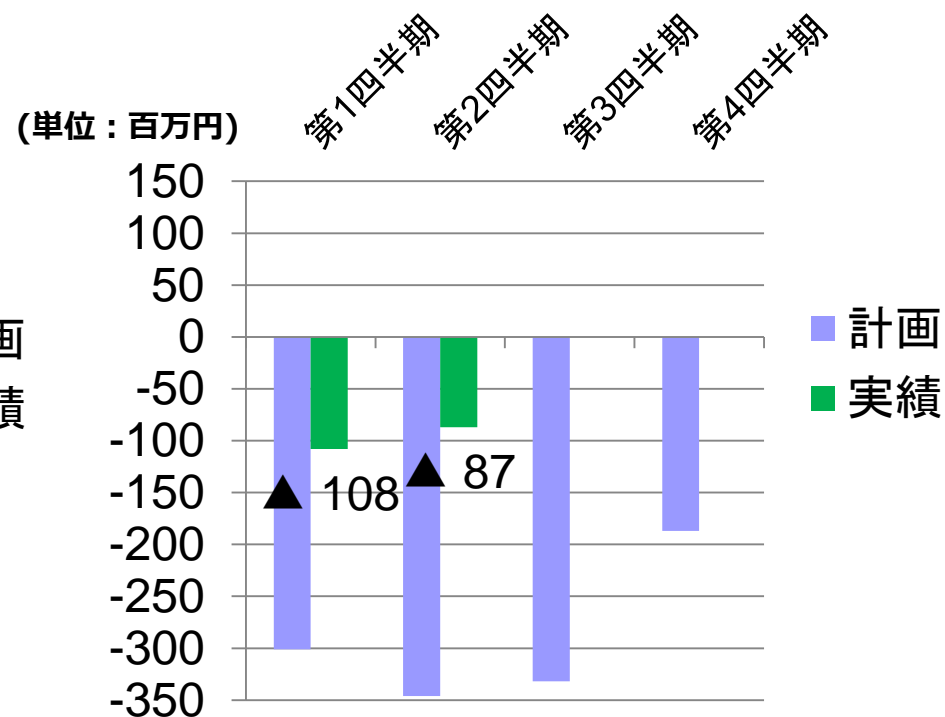
四半期営業損益の対計画進捗

第2四半期業績において、営業利益の計上となっているが、今年度計画の前倒しによる増益及び動力事業における供給率の低下が依然として継続しており、今後も予断を許さない状況に変わりはない。引き続き、施策の実行、全社的な業務効率化を促進させ、更なる収支改善を図る。

各四半期業績



各四半期累計業績



1 『長期ビジョン2025』を見据えた行動指針

2 2021年度第2四半期業績概要

3 2021年度業績予想

2021年度業績予想



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2020年度 実績	2021年度 計画	増減額
売上高	10,404	10,710	+306
営業費用	10,536	10,897	+361
営業損益	▲131	▲187	▲56
営業利益率 (%)	-	-	-
経常損益	▲58	▲197	▲139
当期純損益 ¹	▲45	▲54	▲9

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	2020年度 実績	2021年度 計画	増減額
営業キャッシュフロー	1,472	234	▲1,238
投資キャッシュフロー	▲792	▲1,224	▲432
フリーキャッシュフロー	680	▲990	▲1,670
財務キャッシュフロー	772	▲58	▲830
EBITDA ³	634	504	▲130

期中での収支改善を目指す

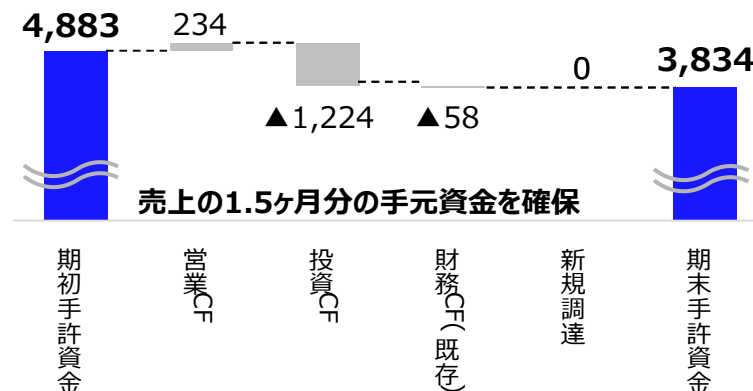
連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2020年度 実績	2021年度 計画	増減額
総資産	14,507	14,307	▲200
有利子負債残高	1,209	1,150	▲59
自己資本	9,330	9,276	▲54
自己資本比率 (%)	64.3%	64.8%	+0.5pt
ROE (%) ²	▲0.5%	▲0.6%	▲0.1pt

(手元資金増減)

(単位：百万円)



1 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

2 (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)

* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業、施設事業、新規事業をまとめて整備事業とし、セキュリティ事業、フードシステム事業、小売電気事業、ビジネスジェット支援事業、GSE等販売事業をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画部

電話: 03-3747-1638

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp/>